

# 日本家禽学会 2017 年度秋季大会

<公開シンポジウム> (参加費無料)

日 時： 平成 29 年 9 月 4 日 (月) 13:30~16:50

場 所： 信州大学農学部 A 棟 2 階 26 番講義室 (長野県上伊那郡南箕輪村 8304)

テ ー マ： 「鶏の育種改良の方向性と課題」

趣 旨：

我が国の養鶏産業は、食生活の高度化・多様化が進み、鶏卵・鶏肉に対する消費者の需要増加に伴って発展してきた。この発展には、飼養・管理・衛生面の改善も然ることながら、育種改良によるところが大きいといえる。特に、近年の育種改良の速度は他の家畜に比べ非常に早く、10 年、20 年前の鶏に比べると、格段に生産性や飼料要求率が向上している。すなわち、数年前の鶏と現在の鶏では、根本的な種としては同じではあるものの、育種改良によって生体応答性に違いが生じているものと推測される。一方で、本学会のように家禽研究を進めている研究者・技術者は、家禽生産の効率化や生産技術を過去の文献を参考に進めているため、以前の鶏の生体応答性とは異なる部分が散見されている。よって、今後の家禽研究・家禽技術を発展させるためには、鶏の育種改良の方向性と現在の課題を改めて理解し、それに対応した研究ならびに技術開発を考える必要がある。

本シンポジウムでは、急速に進む採卵鶏、肉用鶏、国産鶏の育種改良の経緯や今後の方向性を各分野の専門家から紹介頂くとともに、育種によるメリットや課題を生産者の立場から情報提供いただき、研究者・技術者がこれをよく理解し、今後の業界発展に活かす議論を行いたいと考えている。

## 公開シンポジウムプログラム

13 : 30-13 : 35

開会宣言・挨拶  
イントロダクション

会長（山形県立米沢栄養大学） 高橋 和昭

産学交流促進委員長（あすかアニマルヘルス(株)） 岡田 徹

座長 岡田 徹（あすかアニマルヘルス(株)）

木野 勝敏（愛知県農業総合試験場）

13 : 35-14 : 10

講演 1 「Aviagen 社のブロイラー育種改良について」

日本チャンキー（株） 香川 幹二

14 : 10-14 : 45

講演 2 「採卵鶏の育種改良と方向性」

(株)ゲン・コーポレーション 後藤 裕司

14 : 45-15 : 00

休憩

15 : 00-15 : 35

講演 3 「国産鶏種の育種改良の経緯と方向性」

家畜改良センター岡崎牧場 山本 洋一

15 : 35-16 : 10

講演 4 「わが国の産業養鶏と育種についての課題」

人と鳥の健康研究所 家禽診療センター 川崎 武志

16 : 10-16 : 20

休憩

16 : 20-16 : 45

総合討論

16 : 45-16 : 50

閉会挨拶

副会長（Hendrix Genetics） 後藤 直樹

<お問合せ先>

日本家禽学会事務局

〒305-0901 茨城県つくば市池の台2 農研機構 畜産研究部門内

TEL&FAX: 029-838-8777

E-mail: [jpsa-s@naro.affrc.go.jp](mailto:jpsa-s@naro.affrc.go.jp)

